

交通 評論



NPO法人「富士山測候所を活用する会」は本年も山頂剣が峰の旧富士山測候所を借用して夏期2九月の研究を始めたい。今年で5年目を迎える山頂の研究も軌道に乗り、資金難を嘆きつつも世界に通用する成果を出し始めている。

8月初めの富士山頂は好天に恵まれると、絶好の登山日和である。この季節は例年登山者が多い。このことは、観測研究を行う研究者たちにとっては、少し頭の痛い問題である。何しろ年間30万人を超える登山者である。しかも夏の「盛り山」(梅雨明けからお盆までの時期)に集中する。最高地点を示す三角点か測候所のすぐそばにあり、展望台も測候所の測風塔の近くである。剣が峰に至る最後の急な上り坂、馬の背はご来光を目標して夜明け前から数百人の行列ができ渋滞する。毎日恒例となつてい

る山頂渋滞の中、測候所を使っている研究者たちはドアを開くわけにいかない。もし疲れ切っている登山者に同情してうっかり1人入れたりすると収拾がつかなくなり、数時間でトイレがパンクすることになるだろう。

展望台も測候所の測風塔の近くである。剣が峰に至る最後の急な上り坂、馬の背はご来光を目標して夜明け前から数百人の行列ができ渋滞する。毎日恒例となつてい

る山頂渋滞の中、測候所を使っている研究者たちはドアを開くわけにいかない。もし疲れ切っている登山者に同情してうっかり1人入れたりすると収拾がつかなくなり、数時間でトイレがパンクすることになるだろう。

今年の富士登山事情

土器屋 由紀子

り、以前にも突然、危険な測風塔に登り始めた人がいて、山頂班が注意したところ言葉が通じないなどという事例もあった。このように、盛り山は富士山が最もにぎわい活気に満ちる時期ではあるが管理する側には最もストレスのたまる時期である。

ところが、今年はどうしたとか、「海の日」を含む3連休こそ台風の影響が出始めて登山者が少なかったがそれに続く7月23日、24日は夏休み最初の土日というのに、登山者が激減していた。月末になって盛り返してきてはいるが、例年と比べるとまだかなり少なめである。

なぜだろう か。3・11とフクシマ原発事故によって、日本への旅行者が減っている。それにして、国内の旅行者はそれほど減り少なかった。7月初めにNPO研究者の中で放射線医学研究所の保田浩志チームリーダーのグループは、開山前に登山しながら放射能の測定を行ったが、測定結果は平常時と変わらない低い値であり、そのことはホームページに示し報道もされている。海外の旅行者には伝わっていないのだろうか。もし国内の登山者がそれほど減っていないのなら、去年までの登山者は外国人が多かったのだろうか。

8月最初の土曜日を迎えて、馬の背の3分の1に行列ができているというメールが山頂から入ったが、依然として去年よりは少なめとのこと。山のシーズンはまだ終わっていないのでこれから先のことはいわゆる登山者が少なくなつた富士山頂は、大気化学分野などの研究者たちにとっては有り難い環境である。しかし、常日頃お世話になっている近所の山小屋や、神社のことを考えると喜んでばかりいられない心境である。

(江戸川大学名誉教授・元気象大学教授)